



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍のガザ攻撃

7月7日夜、イスラエル軍はガザからのロケット弾攻撃を阻止するための作戦（Operation Protective Edge）を開始した。7日夜から8日未明にかけて、イスラエル空軍は、ガザ内の100カ所以上に集中的な空爆を行った。パレスチナ側の発表では、20人以上が死亡した。死者の中には、ハマースやイスラーム聖戦機構の活動家だけでなく一般市民が含まれている。イスラエル軍は、当面は空爆を継続する模様であるが、一部予備役兵士の招集を開始しており、地上部隊のガザ投入もありうる情勢である。ネタニヤフ首相、ヤアロン国防相など主要閣僚らは、作戦の目的は、イスラエル南部に平穏を戻すこととしているが、今回の作戦は短期では終わらないとも発言している。

ガザのハマースやイスラーム聖戦機構は、7日には100発以上のロケット弾をイスラエル南部に発射した。8日、ハマースは、イスラエル北部のハデラ、中部のテルアビブ、エルサレムにロケット弾を撃ち込んだ。ハマースによるテルアビブとエルサレム攻撃は今回が2回目であるが、北部のハイファの南に位置するハデラ（ガザから100キロ）へのロケット弾攻撃は初めてである。イスラエル側の報道では、テルアビブへのロケット弾は、ミサイル迎撃システム「アイアン・ドーム」が撃墜したが、エルサレム地域には3発が着弾した。イスラエル側では、2名が負傷したが、死者は出ていない。8日、ハマース戦闘員が、イスラエル南部の海軍基地を攻撃したが、イスラエル軍に阻止された。

イスラエルとハマースは、2012年11月に停戦で合意したが、その後も散発的なロケット弾発射とイスラエル空軍の報復空爆が続いていた。2014年になると主にイスラーム聖戦機構によるロケット弾発射が増加した。今年4月末時点では、イスラエル軍は、2013年1月1日から4月24日までにガザからイスラエル南部に発射されたロケット弾は6発だったが、2014年の同期では100発に増加したと発表している。6月12日に西岸で入植者少年3人が拉致され、イスラエルはハマースの犯行だとして西岸でのハマース弾圧を強めたこともあり、ガザからのロケット弾攻撃が増加していた。7月4日には、1日で25発のロケット弾が発射された。

#### 評価

ガザの武装勢力によるイスラエル南部へのロケット弾や迫撃砲攻撃は、例外的に死傷者が出るが、安全保障上の脅威にはなっていない。また2012年11月に初めてテルアビブ、エルサレムが攻撃された時は、イスラエルは激しく対応したものの、今回は迎撃体制ができていたこともあってか対応は冷静である。イスラエル中部、北部の都市を狙った数発程度のロケット弾攻撃は、同地域の住民に不安を与えとしても安全保障上の大きな脅威にはならないだろう。ただイスラエル政府としては、ガザに隣接する地域から遠く離れた地域への長距離ミサイル攻撃

には、何らかの対抗措置を取る必要がある。

今回のロケット弾攻撃の増加に、西岸での入植者少年及び東エルサレムでのパレスチナ人少年の拉致・殺害事件が間接的に影響しているとしても、ガザ情勢は西岸から独立して推移していると見るべきだろう。ハマースは、ガザ統治に失敗した。ハマースは、公務員に支払う給与も手当てできず、エジプトとイスラエルによるガザ経済封鎖も解除できなかった。イスラエルに対するロケット弾攻撃を激化させ、新たな停戦合意を達成するとしても、外交的に孤立し、財政的に困窮しているハマースの状況が改善される可能性は低い。またガザの住民は、イスラエル軍地上部隊がガザに侵攻した場合、ハマースの戦闘員は地下にもぐり、自分たちがイスラエル軍の攻撃の矢面に立たされることは経験済みであり、ガザでのハマース支持が増大することもないだろう。

イスラエルが現在直面している大きな政治問題は、西岸のヘブロンでの入植者少年3人の殺害事件と東エルサレムでのパレスチナ人少年殺害事件の対応である。イスラエルは、入植者少年殺害事件への対応策をまだ決定していない。パレスチナ人少年殺害の容疑者6人を拘束しているが、犯人だと断定していない。イスラエルの対パレスチナ政策の今後を見る場合、ガザで行われているイスラエル軍とハマースの暴力の連鎖より、西岸での2つの拉致・殺害事件の推移のほうがより重要である。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799